

松本新学長に聞く

「原点に立ち戻り、高みを目指せ」

本学の学生が、在学中に身につけるべきことは何でしょうか？

「どんな分野においても原点となるのは「誠実に科学的根拠を積み上げ、論理を完成させる」ということです。おのおのの専攻する分野で「ゆるぎのない軸」を通すことが大切です。」

応用するために、個々の分野を学ぶのですか？

「一つの分野の深い知識は他の分野の理解にも応用できます。受験勉強では短時間で問題を解く必要があるため、パターン化して考えることも重要ですが、実社会における答えのない問題では、パターン化された知識

自分の専門分野に強固な軸を通し、原点に立ち戻って考えられるようになることが、さまざまな分野に応用できます。私は医工連携を推進しており、医者と関わる機会が多くありました。医者は患者を前に日々の診療活動に忙しく、今までの経験的なアプローチで、課題を解決せざるを得ない。そこに「工学」という別の



松本洋一郎新学長

1977年 東京大学大学院工学系研究科 博士課程修了（工学博士）
2009年 東京大学 理事・副学長
2015年 理化学研究所 理事

識では解けないことも多いと思います。大学では、一から考えて知識を構築して解にたどりつくプロセスを、身につけてほしい。立ち止まってもよいから、じつくりと考えてほしいと思います。そういう人が、社会を本当に動かしている人になるでしょう。そういう教育を、理科大で行いたいと思っています。

ものさしを持ち込んでみる。議論の範囲が広がり、新しい気づきが生まれるようになる。広い視野を持つようになるのです。広い視野を持たなければ、本当に必要とされる新しいアイデアは実現できません。物理の応用として金融を考えた時、応用数学の分野としてファイナンスを考えた時、同じことでも、ご自身はどのような研究生活を送られたのですか？

「研究を進めていて感動する瞬間が幾度もありました。面白かったので、苦にはなりません。私は機械工学科でしたので、自分のやりたい実験を構想し、自分の手で旋盤を動かして、自分で実験装置をつくって研究をしていました。想像した結果が得られた時はうれしかったです。誰に強制されることもなく自ら学べるのが、楽しかったのだと思います。」

神楽坂喫煙所を1/3に縮小

20年までに全面禁煙へ

本校は2020年4月からの神楽坂キャンパス内全面禁煙化をめざし、ロードマップを策定した。それに伴い、昨年11月下旬より、神楽坂キャンパス9号館脇に休憩所・喫煙所の分離工事が行われた。工事中は、このスペースを一時的に閉鎖したため、学生の間に喫煙所の廃止が噂された。今回の工事では仕切りとなる

で感じてほしい。大学の学びは、教職員や学生が協働して作っていくものです。私も楽しい学びの場とするべく、精一杯頑張っていくので、学生の皆さんも一緒にそのような理科大にしていきたいと思います。



▲完全分煙された神楽坂8号館脇の休憩所

＝進藤剛志撮影

「ロードマップ」を理事会に提出し、11月下旬に着工した。喫煙者になつていないケースもあり、健康被害はもたらさないよう、こちらから学生にさまざまな方法で働きかけていきたいです」と、太田氏は今後の展望を熱く語った。

さらに、入学時の学生喫煙率はほぼ0%から、4年次の男子学生は12%、女子学生は3%と上昇しており、在学中に喫煙を覚えることも指摘していた。「大学で喫煙を覚えるという学生が

6号館で火災

4階研究室から出火

昨年12月29日、神楽坂キャンパス6号館の4階研究室で火災が発生した。この火災によるけが人は確認されていない。



▲神楽坂キャンパスに駆け付ける消防車（12月29日）＝本学学生提供

牛込消防署によると、昨年12月29日の午後3時35分ごろ、東京理科大学神楽坂キャンパス6号館（耐火4階建て建物）の4階研究室から出火する火災が発生した。この火災で、実験室の床やゴミ箱、ゴミが燃えたものの、建物の焼損はなかった。ま

記者の目

今回の火災は、消防署の調査でも出火原因が解明されていない。また同様の事例として、昨年12月18日に神楽坂キャンパスの部室において、充電中であったモバイルバッテリーから発熱・発煙する事案が発生した。負傷者はなく大規模な火災には至らなかったもの

た、たばこの不始末や放火による出火の可能性は低く、出火原因は不明である。当時、大学は23日に年内の授業を終え、29日は冬期休業中であつたため、キャンパスにいた学生は少なかった。今回の火災について、本学管財課は新聞会の取材に応じていない。

今年度入試で出題ミス

理学部第一部・経営学部の問題で

本学の平成30年度入試において、入試問題の出題ミスが相次いだ。2月2日の経営学部入学

の、周囲に異臭がたちこめるなど現場は一時騒然とした。この事案の原因は古いモバイルバッテリーを充電し、その場を離れたことによるものであった。昨年12月に2回も火災もしくは火災につながりかねない事案が発生しており、学生の火災予防に対する意識の低さがあらわれている。火災によって学生に危険が及ぶぬよう、火災予防に向けて努めるべきである。

また、2月8日の理学部第一部の入学試験でも、「化学」の大問1において解答群の中に正答がないというミスが判明した。本学は、「化学」の受験者988人について当該設問を全員が正答したものとする措置をとった。昨年度入試では、京都市

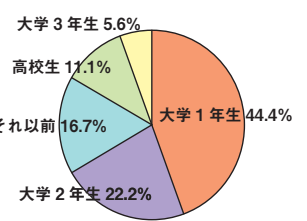
喫煙意識

アンケート

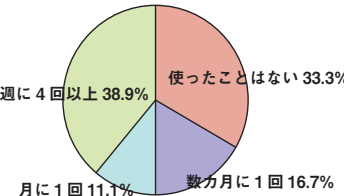
分煙工事に対し、賛成多数

や大阪などの名門大学でも出題ミスが判明し、追加合格者を出すなど大きな波紋を呼んだ。入試は受験生の進路や人生を大きく左右するだけに、試験問題のチェック体制を万全に期していくことが重要である。

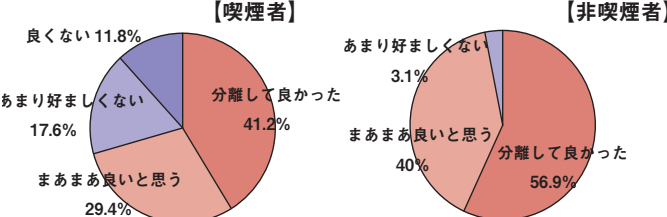
■いつから吸い始めましたか



■キャンパス内の喫煙所を、どのくらいの頻度で利用していますか？



■神楽坂キャンパスの喫煙所と休憩所の分離工事が行われましたが、どう思いますか？



■政府は2020年東京オリンピックに向けて、飲食店での全面禁煙に取り組んでいます。賛成ですか？またその理由を教えてください。

【賛成】	飲食の場でタバコを吸う必要はないと思うので。（喫煙者）
	タバコが嫌いだから。（非喫煙者）
	タバコの匂いは気持ち悪くなるから。（非喫煙者）
【反対】	吸う人にも権利はあるはずだから徹底的に分煙化すればいいと思う。（非喫煙者）
	喫煙はある種の文化である。（喫煙者）
	画一的な価値観をすべての飲食店に押し付けるのは抵抗がある。（喫煙者）